

いしかり
博物誌
124

鰐と鮫様

去年の夏、道南福島町にある「白神神社」に行ってきました。今は猿田彦命を祭っていますが、江戸時代は「鰐」が主神でした。「鰐」とは巨大な鮫のこと、その昔、沖を通った船が嵐で難破しうになつたとき、船長の祈りに応え、船を守り、そのため祭られたという伝説があります。当時は「祖鮫神社」といっていました。

実はこの「祖鮫さん」と石狩弁天社や金龍寺の「鮫様」は同じ神

様だという説があります。

知っている方も多いと思いますが、「鮫様」の正体は「巨大なチョウザメ」で、鮫ではありません。ところが、「鮫様」の像を見ると台座の魚は明らかにチョウザメでなく、鮫の姿をしています。なぜ、なのでしょううか？

像は本州で製作され、仏師がチョウザメを知らなかった可能性もありますが、私はそうではなく、「恵比須信仰」から鮫の姿になつた

のだろうと思います。その証拠に弁天社の「鮫様」の体に斑点が描かれていて、ジンベイザメの姿に似ているからです。本州では古くからジンベイザメは「恵比須様」で、豊漁、海上安全を守る海の神です。おそらく、そのような信仰から、「ジンベイザメ」恵比須様「鮫様」と考え

て像が造られたのでしょう。

また、福島町の「祖鮫さん」も恵比須信仰による神で、その点、「鮫様」と共通点があるといつて良いのでしよう。ただ「鮫様」はアイヌ伝承・信仰が根底にあるとみられ、その点で「祖鮫さん」と異なります。

(石橋孝夫)



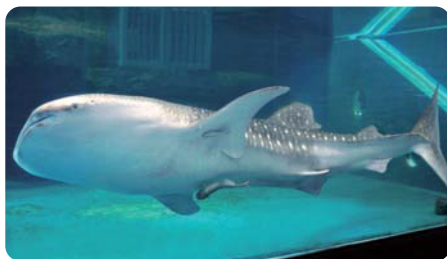
「鮫様」の台座の鮫(弁天社)



金龍寺の「鮫様」



恵比須様



ジンベイザメ



チョウザメ

ERIS 「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ(<http://www.i-eris.tv/>)でもご覧いただけます。



石橋 孝夫 Takao Ishibashi

専門分野は考古学と石狩史。石狩紅葉山49号遺跡の発掘を手がけたほか、縄文時代から江戸時代に至るサケ漁の方法や文化について研究する。